

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 宮城県 】

学校名【 宮城県鹿島台商業高等学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	3学年74名 1学年47名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（3学年：地域ビジネスプランニング（学校設定科目） （1学年：ビジネス基礎） ② 行事名（特別講演, 学習成果発表会（3学年） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（JR 東日本主催「駅からハイキング」） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	地域の魅力について調査研究を行い、様々な活動をとおしてコミュニケーション力を養い、地域との連携を深めて人口減少地域への交流人口拡大を目指す。
5 取組内容	(1) 特別講演 ① 3学年「地域の資源を活用した地域観光」 1学年「観光の役割とインバウンド観光」 講師：宮城学院大学教授 宮原 育子 氏 内容：地域資源の活用の仕方や観光者を誘致するための方法、観光を素材としたビジネスについて ② 「福島イノベーション・コースト構想による交流人口拡大について」 講師：公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構 西嶋 利安 氏 内容：交流人口を増やすための企画作成の手順とその工夫、今後の留意事項



## (2) 「駅からハイキング」

JR 東日本が企画する「駅からハイキング」の1コースとして本校生徒が考案した鹿島台駅発着のハイキングコースの案内。参加者は関東や東北から14名の参加をいただき鹿島台小学校門や鎌田三之助展示室、デリシャストマトを栽培しているデリシャスファームカフェ、鹿島台神社等を生徒が説明しながら地域の歴史や文化を紹介し、鹿島台の魅力をPRした。生徒はこの日のために学校設定科目「地域ビジネスプランニング」の授業で事前準備をした。



## (3) 学習成果発表会

1年間商業科で学んだ成果を発表する「学習成果発表会」において3年生の代表者が学校設定科目「地域ビジネスプランニング」で調査・研究したオリジナルの「駅からハイキング」のアイデアを発表した。

また、実際に「駅からハイキング」で観光案内をした実施報告も行った。




## 6 主な成果

3学年のオリジナルの「駅からハイキング」は1人1作品を作成し、クラスで全員が発表した。そのため情報収集能力やコミュニケーション能力が向上したと自己評価した生徒が多かった。地域を調査・研究することで新たな発見もあり、理解が深まった。

1学年は2回の講演会で地域資源の活用の仕方や震災復興に向けた先進的な取り組みによってめざましい成果を上げている地域が観光客を誘致する取り組みを知る機会となり、来年度以降の取り組みの大きなヒントを得た。

### 【生徒感想】

- ・「自分たちのペースで案内できたと思う。コース設定で鹿島台について調べたが、鎌田三之助が特に勉強になった」(3年男子)
- ・ガイドを務めました。自分たちが学んだことを伝えるというのは簡単なことではありませんでしたが、楽しくガイドをすることができたので良かったです。(3年女子)
- ・震災で被害を受けた沿岸部を利用して試験場にするという発想がすごいと思った。(1年男子)
- ・パンフレットひとつでも持ちやすさや重さなどを考えて作っていることにびっくりしました。(1年女子)

<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>世界農業遺産である大崎耕土をメインの観光資源とし、「駅からハイキング」のコースを設定した。チームでの取り組みとはせず、個人での取り組みとしたため責任をもって最後まで取り組むことが出来た。</p> <p>講演会では、1学年と3学年ではねらいが異なるため、同じ講師の方であっても綿密な打ち合わせを行い、内容を変えてもらった。</p> <p>また、大崎耕土をPRするために全校生徒でモザイクアートを作成し、地元鹿島台駅に展示している。</p>	
<p>8主な課題等</p>	<p>コロナウイルス感染防止のためフィールドワークなど実際に校外で活動する取り組みが計画どおりに出来なかった。地元の互市などの催しものトリックさせての計画だったが、全て中止となり単独の実施となった。</p> <p>来年度は様々なケースを想定しての計画を立案する必要がある。</p> <p>校内担当教員の負担が多くなり、計画どおりに進行出来なかった時もあった。そのため、次年度は組織的な取り組みとしたい。</p>	
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>今年実施の反省を踏まえて継続して取り組む。特に地域の人的資源も含めた地域資源の活用を意識して計画する。</p>	